

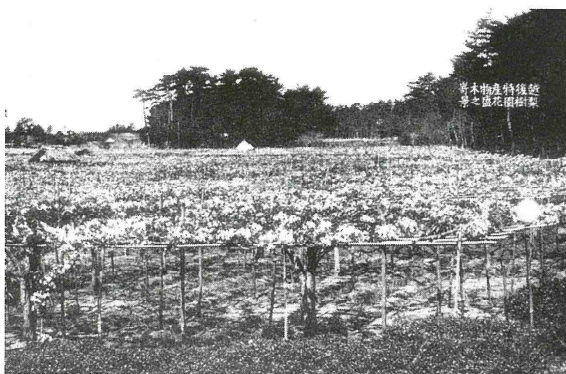
木崎の梨を有名したのは明治天皇と新清豊！

■ 明治天皇、木崎の梨を召し上がる！

北陸巡幸中の1878（明治11）年9月19日、内島見の近藤瀬平家で昼食休憩をとった明治天皇は、陳列されていた梨や葡萄などに興味を持ち、梨を召し上がりました。さらに、梨200個、葡萄100房をお買い上げになり、新発田での宿となる白勢家へ届けるようにとお言葉がありました。明治天皇が食べ物をお買い上げになることはあまりなかったようで、このことがきっかけで、梨は新潟県の産物として有名になり、木崎は梨の第一等の生産地として有名になりました。

■ 木崎地区の梨の歴史

江戸時代の天明年間（1781～1789）頃から木崎村で梨の栽培が始まったといわれています。明治時代に「早生赤」「晩三吉」「天の川」といった品種が導入され、1907（明治40）年頃には「二十世紀」も導入されました。木崎の梨の最盛期、1935～1940（昭和10～15）年には、栽培面積は300haにも及んだといわれています。



1921（大正10）年頃の木崎の梨畑

病気が大発生することもあり、害虫駆除など様々な研究が重ねられました。生産者による優良品種の選抜も盛んに行われ、1937（昭和12）年、笹山では、丈夫で肉質が良く、糖度が高くて貯蔵性にも優れた「新清豊」が生まれ、果樹園芸の振興が図られました。笹山には「新清豊誕生之地」という記念碑が建てられています。

現在は、とよさか果樹振興組合の生産者61人が、面積34haで、新清豊をはじめ、幸水・豊水・ルレクチェなどを栽培しています。

■ 学校にも梨！

木崎地区には、笹山小学校、木崎小学校、木崎中学校の公立校が3校あります。3校とも、地区の名産である梨を校歌や校章に取り入れています。

木崎中学校の校章は、1947（昭和22）年、生徒から図案を募集して制作されました。当時3年生だった須藤幸人さん（下早通）が考案したものが採用されました。梨の花を基本として、中心に“木中”をデザインし、羽ばたく期待が表現されています。

また笹山小学校では梨の木をたくさん植えていて、4年生が地元農家の協力のもと、毎年栽培に取り組んでいます。



木崎中学校の校章